

SPEED箱根セミナー

講演要旨①

未踏科学技術協会の「エコイノベーションとエコビジネスに関する研究会」(SPEED)、会長・山本良一(東京大学名誉教授、東京都立大学特任教授)は先月26日から3日間、毎年恒例の合宿セミナー(共催・ケースホールディングス、日本興亜損害保険、日本興亜おもいやり倶楽部、写真)を、神奈川県箱根町の小田急山のホテルで開催した。今回は「地球(すべての生命の家)のグランドデザイン」を総合テーマに、会員企業や学識経験者ら約50人が参加し、計23件の講演やパネル討論が行われた。その主な講演要旨を連載で紹介する。初回は山本教授の講演。

ノーベル化学賞受賞者 在の地質年代名の「更新世」を「人間世」に変え、博士は2000年に、現るべきだと提唱した。人類が地球環境を順応管理するとしても、自然

類が実質上、地球を改変を単なる対象として捉え、生命操作や気候改変を乱暴に行うようであれば、技術ユートピア主義

を単なる対象として捉え、生命操作や気候改変を乱暴に行うようであれば、技術ユートピア主義

が涅槃である。かつて重源上人は、奈良の東大寺の再建を作善の業として行ったと言われている。この環境胎蔵曼荼羅は、「エコロジカルな懺悔と回心」に基づき、エコプロダクツの開発、環境CSR経営の推進、エンカル(倫理的)購入など、「作善の業」の実践を推奨するものである。



環境曼荼羅で「作善の業」を推奨



山本良一
東大名誉教授

調されたことは、

対談され、「魂宿る自然と生きる」というメッセージとともに、自然との共生を改めて強調されたことは、

大日経の三句の法門に「菩提心を因とし、大悲を根とし、方便を究竟とす」とあるが、松長有慶座主によると「仏の知恵」というものは、仏と衆生が一体となっている本来のあり方が基盤となり、衆生救済に向かう悲が根本となり、それらが社会的な実践活動として実を結ぶことが究極の目標となっている」と解説され

胎蔵曼荼羅の中心は、大日如来を取り囲む四仏、四菩薩よりの中央の中台八葉院である。四仏は、私たちが心の内に本来具わる仏性に目覚め、菩提心を発して(宝幢如来)、修行をし(開敷華王如来)、菩提に至り(阿弥陀如来)、涅槃の境地に向かう(天鼓雷音如来)、心の発展過程を

気候変動問題を気候工学のような手段で、積極的順応管理により解決しようとし、世界に衝撃を与えた。

人類が地球環境を順応管理するとしても、自然

胎蔵曼荼羅の中心は、大日如来を取り囲む四仏、四菩薩よりの中央の中台八葉院である。四仏は、私たちが心の内に本来具わる仏性に目覚め、菩提心を発して(宝幢如来)、修行をし(開敷華王如来)、菩提に至り(阿弥陀如来)、涅槃の境地に向かう(天鼓雷音如来)、心の発展過程を

が涅槃である。かつて重源上人は、奈良の東大寺の再建を作善の業として行ったと言われている。この環境胎蔵曼荼羅は、「エコロジカルな懺悔と回心」に基づき、エコプロダクツの開発、環境CSR経営の推進、エンカル(倫理的)購入など、「作善の業」の実践を推奨するものである。